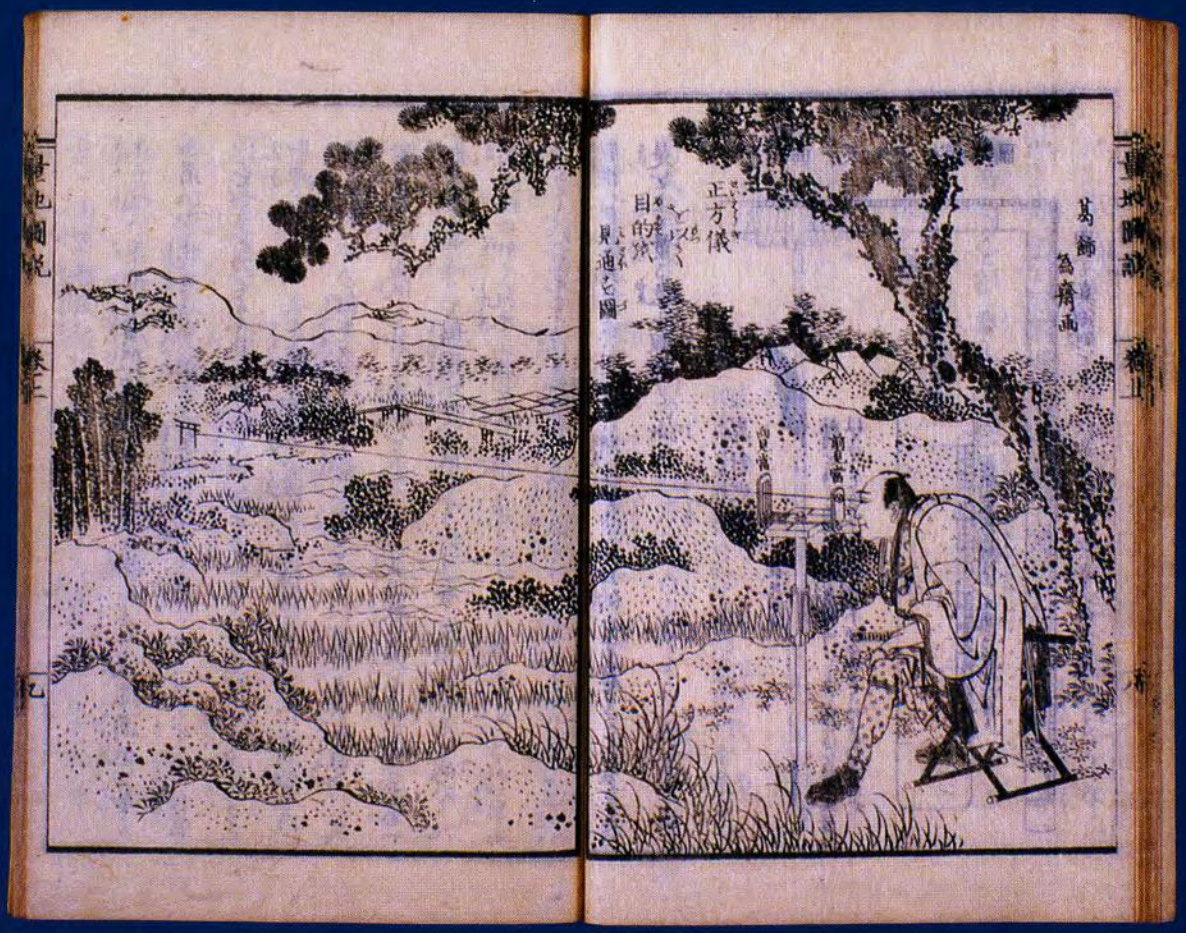
川越市立博物館

博物館だより

第47号



量地図説　嘉永5年(1852)刊

中国では、天文をはかり調べることを「測天」、土地をはかることを「量地」といい、両者をあわせて「測天量地」と言いならわしていました。「測量」は「測天量地」の略語で、天文観測まで含む言葉でした。そのため江戸時代には、「測量」は天文観測の意味で使用されることが多く、今日の「測量」にあたる言葉は、「量地」とか「町見」が用いられました。

この『量地図説』は、甲斐駒蔵広永が著した初学者用の測量術書で、簡易な測量器の製作法も記しています。甲斐広永は常陸国笠間藩士で、数学を江戸の長谷川弘（1810～1887）に学びました。長谷川弘は、長谷川数学道場を開いた長谷川寛（1782～1838）の養子で、道場を引き継いで多くの数学者を育てました。本書は標題に「図説」とあるように、測量器の詳しい分解図や測量を行っているところの挿絵が収められています。絵師は葛飾為斎、葛飾北斎の門人の一人です。本書には、同じく長谷川数学道場の門人でもある川越藩の鈴木金六郎宗徳が序文を寄せています。序文では、志あるものが僻遠の地で測量術を学ぼうとするには、良き師や測量器を得るのが難しいことを切々と述べています。川越藩士の勉学状況をかいま見る一文でもあります。

「はなれたる山里などにて、物学ばんとするによき師にとぼしく、其道につかふべきうつは(器)ども、はた得がてならんを、いかがはせむ。一とせ、長谷川先生わがさとに旅寝したまひし時、友だちこれかれかたらひ合せ、名簿まゐらせて、学びがてら近きわたりの村里のたゝずまひ、田畑の広さ狭さなどはかり試みるに、幸によき師にしたがひて、うつは(器)どもゝ心にまかせたれば、おろかなる身の思ふにまして道のすゝみも早かりし」

戦時中の紙芝居と国民

紙芝居「防空必携 我等の防空」

1　はじめに

この紙芝居「防空必携　我等の防空」は、戦後60年にあたる昨年、市内喜多町の旧家の蔵から発見され、関係者の方を通じて博物館に寄贈となったものです。本稿では、この紙芝居を含め数点を紹介するとともに、戦時中のメディアとしての紙芝居と国民の関係についても考えてみたいと思います。

2　紙芝居「我等の防空」の概要

奥付によるとこの紙芝居は、(財)大日本防空協会が編纂し、東京市荒川区三河島町(現東京都荒川区荒川)の大日本画劇株式会社(注１)によって昭和18年(1943)３月に製作・発行されたもので、第一部基本訓練編、第二部警戒対策編、第三部空襲編の三部構成となっています。さらにこの紙芝居は、「『時局防空必携』の全指導精神を盛りこんだもの」で、三部合わせて見ることにより、初めて「国民防空の目的を達することが出来」るとされています。

3　紙芝居の歴史 ―街頭紙芝居から国策紙芝居へ―

現在のような形式の紙芝居は、昭和の初め頃、街頭で飴などを買ってもらう代わりに見せるもの(街頭紙芝居)として登場しました。紙芝居は、「黄金バット」や「少年タイガー」などの冒険活劇から継子(ままこ)いじめの悲劇まで、数多くの魅力的な作品が作られ、子どもたちの間で大人気の娯楽となりました。作品それ自体の魅力もさることながら、紙芝居屋のおじさんの迫力ある演出も子どもたちの心を引き付けました。やがて紙芝居は、その宣伝・教化力が注目されるようになり、今井よね、松永健哉、高橋五山らによって、教育を目的とする印刷紙芝居(教育紙芝居)の普及も試みられました。

しかし、昭和12年に日中戦争が始まった頃からこのような状況は一変します。手描きの街頭紙芝居が衰退する一方、日本教育紙芝居協会(注２)をはじめとする各印刷紙芝居製作会社は、紙芝居の宣伝・教化力を重視した政府や翼賛団体からの注文を受け、国策宣伝や戦意高揚をテーマとした紙芝居(国策紙芝居)を製作するようになりました。戦争が拡大するにつれて、隣組の常会や学校などで国策紙芝居が盛んに演じられ、演者たちの講習会も開かれるようになりました。

こうして、紙芝居は新聞・ラジオ・映画などと並び、

国民を戦争協力体制に組み入れるためのメディアに位置付けられました。この紙芝居「我等の防空」も戦時中に作られた国策紙芝居のひとつです。

4　紙芝居「我等の防空」の特徴
—第一部基本訓練編を例として—

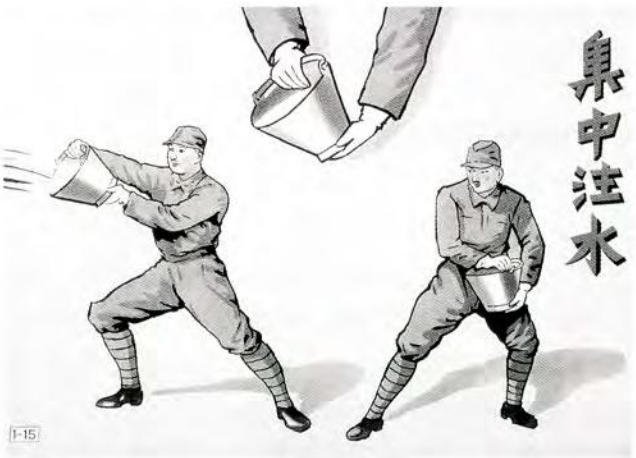
紙芝居「我等の防空」を詳しく見ていきましょう。第一部基本訓練編は全部で24枚です。紙面の都合で、すべての場面を紹介することができないので、いくつかの特徴的な場面を取り上げてみたいと思います。

なお、(　)内の文は紙芝居の裏面下部に記載されている「演出手引」の内容を要約したものです。

【場面２】　「演出手引」に従えば、導入部分は、激しい空襲の様子を描いた絵が高々と上げられて観客の視線を集め、「されど、我に備へあれば、空襲恐るるに足らず。」という演者の「自信たつぷり」の声が響き渡ります。これらが相まって、観客は非常時意識を高めたのではないでしょうか。(演者は調子を落とし、次の場面へと移ります。)

【場面３】　場面は「昭和十六年十二月八日」(太平洋戦争開戦の日)、とある隣組の常会という設定です。演者が演じる「隣組長」はこの後数場面にわたり、水、砂、土、むしろ、バケツ、火たたきなどの消火に効果があるとされていたものを列挙し、焼夷弾に対する万全の準備を整えるよう「組員」に促します。(演者は、場面展開に合わせて声の調子やテンポを変えたり、描かれている用具を一点ずつ指し示しながら話を進めます。)

【場面12】　場面は隣組内の西條家へと移ります。家長の英助が一家全員を集め、空襲時における家庭内での受け持ちについて話し合っています。(演者は、描かれている「任務分担表」をひとつひとつ指し示しながら説明します。) 翌日、西條家では一家総動員で防空準備を固め、訓練を始めることになりました。



【場面15】　一番大切とされる防火のための注水の訓練が行われています。(この場面は「絵と演者のゼスチユアーを結び付けて演出する方が効果的」としています。) 引き続いて、西條家では空襲警報発令時に備えた訓練を行います。その後、「昭和十七年三月五日」、初めての警戒警報が発令されたという場面へと移っていきます。西條家では手際よく防火の準備を整え、続く空襲警報発令に備えました。

【場面24】　最後の場面は、隣組・家庭が一丸となって取り組んできた日頃の訓練が実を結んだかたちとなり、空襲への万全の備えが強調されています。ここで第一部が終わり、紙芝居は第二部、第三部へとつながっていきます。

このように、「我等の防空」を注意深く見ていくと、紙芝居という伝達手段(メディア)を用いて、戦争を推し進めていた政府(または翼賛団体)が模範的な隣組・家庭像を描き、これを国民に浸透させようとしていた意図が浮かんできます。国策紙芝居は、高い宣伝・教化力を持つという紙芝居の利点が最大限に生かされていると言えるでしょう。「我等の防空」そのものも実際の隣組で利用されることを想定して作られたはずで、鉛筆による書き込みが散見されることを考えると、実際に利用されていた可能性が高いと推測されます。

5　川越市の防空体制

戦時中の防空体制とはどのようなものだったでしょうか。川越市を例に見ていきましょう。

川越市では、昭和7年に大規模な防空演習が初めて行われ、防空法が制定された昭和12年には軍官民合同で関東防空演習が行われ、川越市民もこれに参加しました。昭和16年に太平洋戦争が始まると、全国的な歩調に合わせて、川越市でも本格的な戦争協力体制が整っていきました。市議会は翼賛選挙によって軍部に協力的な議員を中心に構成されました。また、市役所には警防課が置かれ、防空体制に関する仕事に当たりました。防空演習は、青年団・消防団・在郷軍人会（注3）が中心になって隣組・町内会単位で頻繁に行われました。演習では、焼夷弾に対する消火活動や灯火管制などが行われました。当時の国民学校でもたびたび防空演習が行われ、子どもたちは防空頭巾を携えて登校しました。

川越市では大きな空襲を受けないまま終戦となりましたが、東京をはじめ全国の主要都市は、度重なる空襲によって壊滅的な被害を受け、多くの一般市民が犠牲になりました。県内でも、熊谷市などが大きな被害を受けました。頻繁に行われた防空演習も実際の空襲には無力に等しいもので、人々は逃げるのがやっとでした。紙芝居「我等の防空」に描かれた空襲に対する万全の備えも、実際には絵に描いた餅にすぎなかったわけです。

防空演習の様子（川越市内）

6　子ども向けの紙芝居「モモタラウ」

話を紙芝居に戻しましょう。次に紹介する紙芝居「モモタラウ」（全20枚絵のみ完存）は、市内の寺院が経営する幼稚園に眠っていた紙芝居で、以前に博物館に寄贈されたものです。この寺院は戦時中(昭和14年春以降)、川越市の依託によって農繁期限定の保育所を設けていました。紙芝居はこの保育所の備品となっていたものです。

興味深いのは、この紙芝居は、絵だけが「浄峠（きよめ）」と「オトギ列車」（注4）という全く別の紙芝居の絵の上に貼られているということです。このため、「モモタラウ」の脚本がどのようなものであったのかは定かではありません。明らかなことは、「モモタラウ」のタイトル場面に全甲社紙芝居刊行会(注5)のマークがあり、「日本昔噺第五輯（にほんむかしばなししゅう） 決戦体制版」というシリーズ名が入っているということで、この紙芝居は戦時中に製作されたものと考えられます。

「モモタラウ」の絵柄は、今日一般的な桃太郎の話と特に変わらないように見えますが、戦時中ということを考慮すると、鬼をアメリカ・イギリスなどに見立てている可能性もあるでしょう。物資が極端に乏しく

なっていた戦争末期において、全甲社の高橋五山は、ありあわせの紙で作ることができる貼り絵の紙芝居を考案したとされており、「モモタラウ」もその内のひとつと考えられます。桃太郎のような昔話も、戦時中は子どもたちを「決戦体制」に組み入れる格好の題材とされていました。

紙芝居「モモタラウ」

7　戦争末期の国策紙芝居「浄峠」

ところで、「モモタラウ」の台紙となっている「浄峠」（全16枚完存、ただし、表には「モモタラウ」の絵が貼られている）ですが、奥付によると「戦意昂揚画劇」という肩書きで創作国民徴用援護会によって製作され、大日本画劇株式会社が昭和19年9月に発行したものであることがわかります(注６)。

さらに奥付には「意図」として、「本編は一徴用工員をめぐつて、交換船で内地に帰還せるその母と街の援護の美しさを描き、決戦段階に臨む国民の戦意昂揚を図る。」とあります。また、「実演の注意」として、「(イ)全編十六場面、所要時間約十五分、(ロ)交換船で帰国した清二の母が、生産戦のために自分の愛着さえ断ち切つて、浄峠の実家に帰る。十二場面を全体の要点とし、清二が発憤するにふさわしい感動的な演出を工夫する。(ハ)結末は悠揚と印象的に演出のこと。」とあり、「程度」は「国民学校高学年及び一般向け」としています。内容は、終始美談調でありながらもアメリカに対する敵がい心をあおり、国民が総力を挙げて戦争を遂行していこうと訴えかけるものになっています。

紙芝居「浄峠」

8　おわりに

戦後、国策紙芝居はGHQ（連合国最高司令官総司令部）によって裁断・破棄命令が出され、半ば強制的に歴史から封印されました。一方、子どもたちの娯楽であった街頭紙芝居は少しずつ戻り始め、第二の全盛期を迎えました。

再び世に出回る日が来ないよう、お蔵入りとなった国策紙芝居。長い眠りから覚めた紙芝居たちは、図らずも戦争の実態を現在に伝える数少ない証言者となりました。これらの紙芝居は、戦争の記憶が薄れゆく現在の私たちに、メディアとの関わり方について再考する機会を与えてくれたのかもしれません。戦時中には困難であったことでも、様々なメディアを通じて情報があふれる現在こそ、私たちは受けた情報を鵜呑みにすることなく、冷静に判断していく責務があるはずです。

（学芸係　小茂鳥貴夫）

（注１）大日本画劇株式会社は、昭和12年に複数の紙芝居製作所が統合されて設立された印刷紙芝居製作会社。

（注２）日本教育紙芝居協会は、昭和13年に松永健哉が中心となって設立された団体で、後に日本教育画劇株式会社と提携して多くの印刷紙芝居を発行した。

（注３）後にこの三つの団体によって警防団が結成された。

（注４）「オトギ列車」は日本教育紙芝居協会が昭和16年9月に発行した写真紙芝居である。

（注５）全甲社は、紙芝居作家の高橋五山が設立した印刷紙芝居製作会社。全甲社は当初、ディズニーの絵本を手本にした教育紙芝居を製作したが、次第に国策紙芝居の製作を余儀なくされた。

（注６）清二(「浄峠」の主人公)は幼い頃両親と別れ、床屋を営む民造によって育てられた。実は両親は借金の返済のためにアメリカへ出稼ぎに渡っていたのだが、戦争が始まってからは現地に抑留され、そのまま父は他界した。戦局が重大な局面を迎える中、母歳子が日本へ帰ってくるというあら筋である。

（付記）戦時中の紙芝居に関する情報をお持ちの方は、博物館まで御連絡いただければ幸いです。

主な参考文献　埼玉県平和資料館『企画展 戦争と紙芝居』
上地ちづ子『紙芝居の歴史』
山本武利『紙芝居 街角のメディア』
鈴木常勝『メディアとしての紙芝居』

博物館における中学生の社会体験事業

はじめに

中学生の社会体験事業は、子どもたちの豊かな人間性を育てるために、学校・家庭・地域社会及び行政が十分に連携して行う事業です。当館も中学生の社会体験事業を受け入れる事業所のひとつになっています。今年度は、７月から２月にかけて市内８校の中学校から依頼を受け、延べ20人の生徒が当館で社会体験事業を行いました。

博物館でどんな仕事をするの？

主な仕事ですが、午前中は受付業務、午後は軽作業を行います。受付業務は当館及び本丸御殿、蔵造り資料館でも行い、違った場所を経験します。

午後の軽作業は、月２回実施している「土曜体験教室」の準備や、「子ども博物館教室」の準備を行います。また、データをパソコンに入力する作業や企画展の展示作業を手伝うこともあります。

仕事に臨む心構えとして、どの中学校の生徒にも話していることですが、「しっかりした挨拶や返事をすること」「言葉遣いに気をつけること」「時間を守ること」「身だしなみを整えること」を意識してもらいたいと考えています。

生徒の感想の中から

社会体験で学んだことは、仕事の大切さです。職員の皆さんは、とても一生懸命仕事をしていました。将来、僕も博物館の皆さんのように、一生懸命仕事ができるように頑張りたいです。
（一年生　男子）

お客様が受付の前に来ると「いらっしゃいませ」と大きな声で言っていたことや、私たちにやさしく接してくれたことが印象的でした。私も将来、人にやさしくしてお客様に接する仕事につきたいと思いました。
（一年生　女子）

企画展の手伝いをする中学生

今後に向けて

受け入れる事業所としては、中学生にも可能な業務を考えなくてはなりません。博物館では、さまざまな分野の仕事を体験してもらいたいと考えています。そのため、先生方との打ち合わせはもちろん、生徒たちとの打ち合わせも重要になります。事前の心構えを持たせる意味からも、学校と博物館が共通理解を図るためにも綿密な打ち合わせを行う必要があります。

（教育普及係　石井伸明）

「川越の職人」コーナー

箪笥職人

城下町川越の伝統的な職人の仕事場を再現する「川越の職人」コーナーでは、毎年1回の展示替えを行っています。

平成18年11月頃までの展示

箪笥(たんす)が庶民の道具として普及したのは、江戸時代中期以降のことです。抽斗(ひきだし)の付いた箪笥は機能的で、庶民が豊かになった時代に即した収納家具でした。江戸時代、川越は箪笥の名産地として、各地へ箪笥を供給していました。輸送路には新河岸川や川越街道が用いられ、川越は箪笥の町として長らく隆盛を誇ってきました。箪笥を運ぶのは空気を運ぶようなものだと言われるそうですが、流通コストのかかる川越の桐箪笥が好評を博してきた事実は、川越箪笥の品質のよさを示していると言えそうです。

今回の展示では、箪笥職人特有の道具として、仕上げ工程で用いられるウズクリ(カルカヤの根を束ねたタワシ)や鑢(ろう)も展示しました。職人たちは見ばえの美しさにも心血を注いできたのです。

多くの人にとって、幼いころ家にあった箪笥のイメージは強く心に残っていることでしょう。300年の時を経て、箪笥は日本の文化にしっかりと根付きました。

現在、川越の箪笥製造業者はわずかとなってしまいましたが、職人はいよいよ優れた製品を作り続けています。

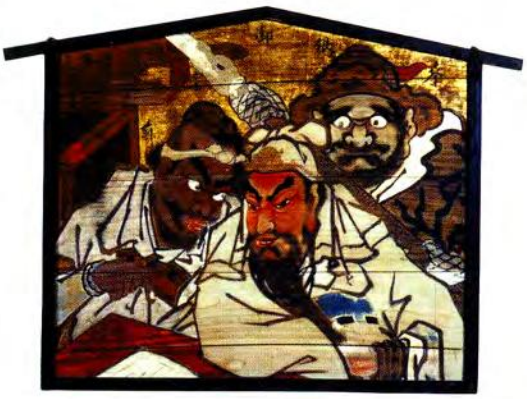
第27回企画展

川越の大絵馬－絵柄に託された人々の願い－

平成18年3月25日(土)～5月14日(日)

絵馬は吊懸(つりかけ)形式の小絵馬と扁額(へんがく)形式の大絵馬に大別されます。中世までの絵馬のほとんどは小絵馬でしたが、室町時代の中期以降になると、扁額形式の大絵馬が出現し、絵柄も馬以外のものが描かれるようになりました。

今回は川越市内に残る多くの絵馬の中から大絵馬を集め、その絵画的側面に焦点をあてて展示します。大絵馬を身近な絵画として見直すとともに、人々が大絵馬奉納にこめた想いを汲み取っていただければ幸いです。



昨年、横浜市在住の太田敬氏より、当館へ太田家伝来の貴重な資料の御寄贈がありました。太田家の先祖は、川越藩最後の藩主であった松平周防守家の家臣で、たび重なる藩主の国替えに付き従い、明治維新を川越で迎えました。

川越市では、この寄贈に対し、平成17年12月1日(川越市民の日)に川越市善行表彰を行いました。また、平成17年11月30日には国から紺綬褒章が授与されました。

貴重な品々を御寄贈いただきましたことに深く感謝申し上げます。

利用の御案内

◆入館料

区分	博物館	川越城本丸御殿	川越市蔵造り資料館	共通入館(観覧)券		
				●博物館 ●美術館	●博物館 ●本丸御殿 ●蔵造り資料館	●博物館 ●本丸御殿 ●蔵造り資料館 ●美術館
一般	200円 (160円)	100円 (80円)	100円 (80円)	300円	300円	450円
大学生 高校生	100円 (80円)	50円 (40円)	50円 (40円)	150円	150円	220円

※(　)内料金は、団体〔20名以上、1名につき〕の場合

◆開館時間　午前9時から午後5時まで（ただし入館は4時30分まで）

◆休館日　月曜日（休日の場合は翌日の火曜日）※川越まつりの翌日は開館
第4金曜日（休日・休翌日を除く）年末年始（12月28日～1月4日）
館内消毒（6月下旬予定）、特別整理期間（12月中旬予定）

＊開館時間・休館日は、博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館とも同様
（館内消毒・特別整理期間は、博物館のみ休館）

交通案内

東武東上線・JR川越線　川越駅より
または西武新宿線　本川越駅より
東武バス「札の辻」下車徒歩8分
・御来館の際は、なるべく電車、バスを御利用ください。

発行日　平成18年3月17日　　発　行　川越市立博物館
〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1　☎049-222-5399　FAX 049-222-5396
Eメール hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp
http://www6.ocn.ne.jp/~kawahaku/

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています